

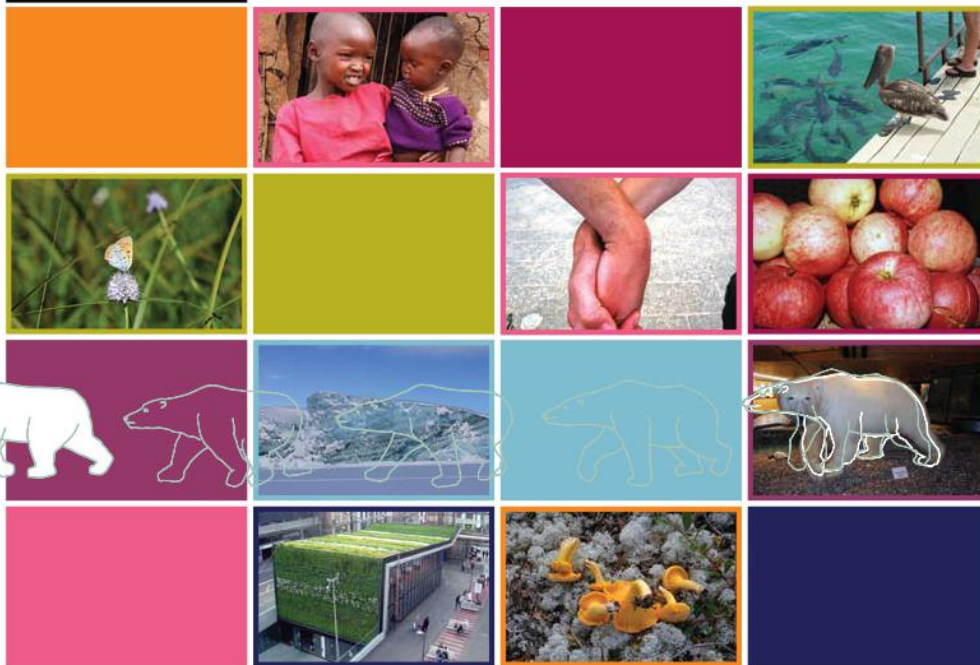
# ストーリーを伝える

責任ある持続可能な生活



## 画像とオブジェクト

アクティブラーニング方法論ツールキット 5



# ストーリーを伝える

責任ある持続可能な生活

画像とオブジェクト

アクティブラーニング方法論ツールキット 5



初版発行：2014年、PERL（Partnership for Education and Research about Responsible Living／責任ある生活に関する教育・研究のパートナーシップ）

ヘドマルク・ユニバーシティ・カレッジ（ノルウェー、ハーマル）

<http://www.perlprojects.org>

ISBN 978-82-7671-922-2



生涯学習プログラム

協力：欧州連合エラスムス学術ネットワーク

本プロジェクトは欧州委員会から助成金による資金提供を受けています。本書の内容は著者の見解のみを反映したものであり、欧州委員会は本書に含まれる情報のいかなる使用に関しても責任を負いません。



CDET B

As Bord Oideachais agus Oiliúnaíochtaí Átha Cliath  
City of Dublin Education and Training Board



資金の一部は、CDET B カリキュラム開発ユニット（アイルランド）から拠出されています。また、「国連持続可能な開発のための教育の10年（2005-2014年）」への貢献の一環として、アイルランド教育技能省からも一部資金提供を受けています。

COPYRIGHT © 2014 WITH THE AUTHORS.

## 著者一覧：

Miriam O'DONOGHUE／CDET B カリキュラム開発ユニット（アイルランド、ダブリン）

Gregor TORKAR／ヨーロッパ地理協会（EGEA）、リュブリャナ大学教育学部（スロベニア）

Helen MAGUIRE／セント・アンジェラ・カレッジ家政学科（アイルランド、スライゴ）

Victoria W. THORESEN／ヘドマルク・ユニバーシティ・カレッジ（ノルウェー、ハーマル）

Nuno MELO／リスボン高等教育学校（ポルトガル）

Lenka MUZICKOVA／Generation Europe, o. s.（チェコ共和国）

## デザイン&レイアウト：

Veronika HROZINKOVA

## 写真：

裏表紙に謝辞を記載。

## 謝辞（PERL 作業グループメンバー）：

Miriam O'DONOGHUE

Gregor TORKAR

Helen MAGUIRE

Victoria W. THORESEN

Nuno MELO

Lenka MUZICKOVA

Vija DISLERA

Irena ZALIENSKIENE

## 協賛機関：



# 目次

ページ

はじめに .....	4
ミレニアム開発目標（MDGs） .....	6
アクティブラーニング方法論としてのストーリーテリング .....	7
アクティビティ 1：互いのストーリーを伝え合う .....	10
「責任ある持続可能な生活」トピックカード .....	11
アクティビティ 2：ストーリーの「感覚」 .....	12
感覚アクティビティカード .....	13
アクティビティ 3：身の回りにあるモノに隠されたストーリー .....	14
アクティビティ 4：ストーリーの語り手 .....	17
アクティビティ 5：国境を超えたストーリー .....	18
MDG シンボルカード .....	19
MDG 関連カード .....	20
アクティビティ 6：一面記事のストーリー .....	23
アクティビティ 7：各自のロール（役割） .....	24
ロールカード .....	25
ストーリーの評価 .....	26
画像サンプル .....	28
参考文献 .....	59

# はじめに

## Partnership for Education and Research about Responsible Living (責任ある生活に関する教育・研究のパートナーシップ)

Partnership for Education and Research about Responsible Living (PERL/責任ある生活に関する教育・研究のパートナーシップ)とは、次の項目を目的として、人びとや地域社会が人生の選択や生活を再考し、考え方を見つめ直すことをサポートするネットワークです。

- 自分自身や他者、地球環境に悪影響を及ぼす行動を最小限に抑えること
- 資源をより公平に配分すること
- 持続可能性を高めること

## 「画像」と「オブジェクト」のツールキット



PERLは、学生中心のアクティビティやアクティブティーチングに役立つ画像とオブジェクトのツールキットをシリーズ形式で開発しています。このツールキットは、「責任ある持続可能な生活」という観点から、学生が自分自身の考え方や価値観、意思決定に疑問を持つことを促す内容となっています。ツールキット全体で画像やオブジェクトを使用しているため、責任ある持続可能な生活の送り方を、インタラクティブで実践的かつ総体的な方法で教えることができます。

## ツールキットのポイント：“ストーリーを伝える”

これは、PERLが開発したアクティブラーニング方法論ツールキットシリーズの第5弾です。教育方法や学習方法の鍵として「ストーリーテリング」を重視し、「責任ある生活」や「持続可能な開発」に関するテーマを探っていきます。このツールキットには、責任ある持続可能な生活、ミレニアム開発目標、アクティブラーニング方法論としてのストーリーテリングに関する情報が盛り込まれており、学生主体のアクティビティで役立ちます。また、ミレニアム開発目標の情報や関連するアクティビティも含まれるため、責任ある持続可能な生活について、幅広い世界的状況を学生と一緒に見ていくことができます。

## ツールキットのアクティビティの実行方法

各アクティビティはすべて独立した手法として実施することができ、それぞれに特定の学習目的が設定されています。また、必要な教材、アクティビティの準備、教室での実施方法、振り返りのためのアイデア、アクティビティと学習の評価方法についても明確に示されています。アクティビティで役立つ画像サンプルや、授業用に印刷して使用できるワークシートや資料も添付されています。アクティビティによっては、責任ある持続可能な生活やミレニアム開発目標について、学生に一定レベルの予備知識が求められる場合もあります。ツールキット全体にわたり、教員が「話のきっかけ」を作るためのテーマやトピックが用意されていますが、特定の主題に合わせてアクティビティを簡単にアレンジすることもできます。

アクティビティのレベルは複雑さや難易度といった点で異なります。著者らはアクティビティの計画段階で、識字能力と計算能力、包括的学習、学習評価のサポートに役立つ手法をいくつか盛り込んでいます。また、さまざまな能力を持つ学習者のために、各アクティビティではステージや発展課題も用意されています。アクティビティは、各アクティビティに定められた学習目的と関連づけて反映させ、評価する必要があります。考察や評価に役立つアイデアも盛り込まれています。

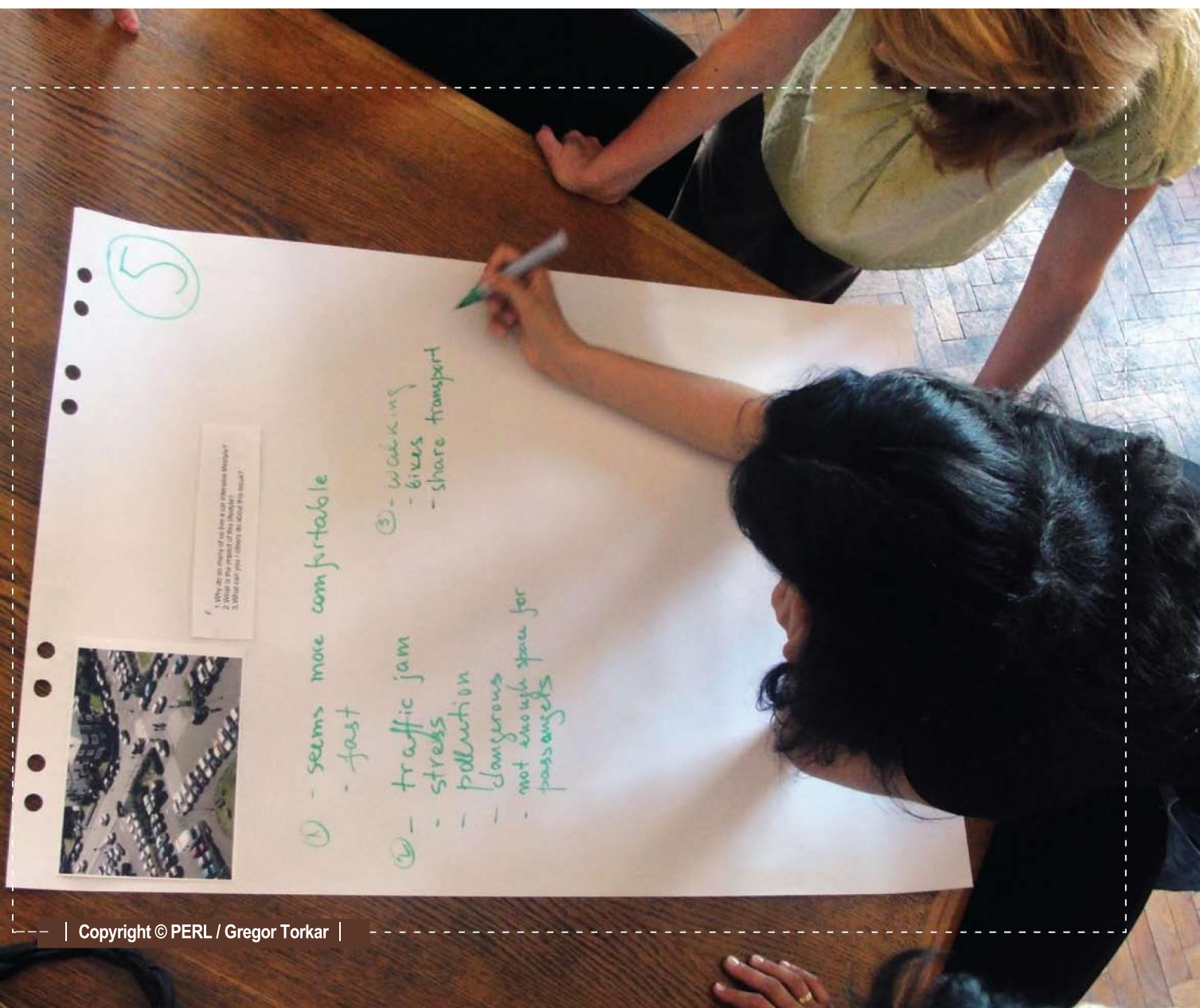


# 責任ある持続可能な生活のための教育

教育は、能力形成に大きな役割を果たすものです。持続可能な開発のための教育（ESD）は、人びとや地域社会が、地域と世界の相関性を意識しながら、生態学的に持続可能で経済的効率性が高く、社会的に公正な環境の形成に積極的に参加できるようにすることを目標としています。持続可能なライフスタイルに関する教育がESDの重要な要素の一つであり、持続可能なライフスタイルをより深く、そしてより広く解釈することが責任ある生活と言えます。

「責任ある生活」という概念には、現代社会で優先されるもの（物質的・非物質的）の見直し、人と人との関わりの再定義、既存の経済的・社会的・生態学的課題に対する社会の取り組み方の改革、科学と社会の対話の強化などが含まれます。ここで大切なことは、（現在、そして将来的にも）他者の生活の質を損なうことなく自分個人の生活の質を向上させるために知識を活用したり、知識を応用したりするだけに限らず、他者の生活の質を向上させようと積極的な取り組みを行うことです。責任感を持った人間になろうとすると、さまざまな視点や生き方を認めること、他者（あらゆる生き物）のニーズを理解すること、資源の有効利用について批判的に分析することは、いずれも非常に重要なものです。

だからこそ、このツールキットは責任ある持続可能な生活をテーマとしているのです。このため、ミレニアム開発目標を盛り込むことも重要となります。これは、持続可能な開発という側面を意識して、人びとの間に存在する格差を縮めるための目標を設定することで、世界の資源を公平に配分利用できるようにするというものです。



# ミレニアム開発目標

ミレニアム開発目標とは、2000年に開催された国連ミレニアム・サミットで定められた国際社会の発展に関する八つの目標です。189の国連加盟国と23の国際組織が、2015年までにミレニアム開発目標を達成することを表明しました。次の八つのミレニアム開発目標の達成には、教育分野の進歩が重要な役割を果たします。



「行動を加速すれば、世界はミレニアム開発目標を達成すると同時に、野心的で意欲的な2015年以降の開発の枠組みに向けて弾みをつけることもできます。今こそ、すべての人にとって、より公正、安全かつ持続可能な未来を作り上げるための取り組みを本格化させるべき時なのです」

潘基文（パン・ギムン）国連事務総長  
国連ミレニアム開発目標報告 2013

国連は引き続き各国政府、市民社会などのパートナーと連携することで、ミレニアム開発目標が生み出した弾みを土台に、野心的でありながら現実的な「ポスト2015年開発アジェンダ」を策定しています。



# アクティブラーニング方法論としての の

## ストーリーテリングの学習への活用

ストーリーテリングによる学習は楽しく、学べることも多いため、あらゆる年齢層の学生がこの手法を用いて、持続可能性の概念やこれに対する姿勢、行動を学ぶことができます。ストーリーテリングはとりわけ、他者と関わる学習環境（協同学習の応用）を生み出す際に役立ちます。このような環境では、協働や振り返り、仲間同士の結束が、尊重され、私たちが共通の未来を再考し、責任ある持続可能な生活を決定する上での必須要素となります。また、ストーリーテリングは重要な既存の知識を与えるだけでなく、知識獲得の他の方法を理解・探求するための手段ともなり得ます（Gough & Sharpley, 2005）。

ストーリーテリングとは出来事を言葉で表現し、伝えることです。画像などの新しい媒体をストーリーテリングに取り入れることで、参加者はストーリーを表現、消費、記録することができるようになります。画像とオブジェクトは、ストーリーテリングを始める「きっかけ」として最適であり、「百聞は一見に如かず」ともいわれるように、会話を促したり、進めたり、生み出したりする役割を果たします。ストーリーは特定の出来事、登場人物、談話的観点から構成され、これによってストーリーが誰の視点で語られているのかが決まります。ストーリーテリングの形式は「おとぎ話」「民話」「伝説」などの他、歴史や個人的な身の上話、政治的な出来事、変化する文化規範など多岐にわたります。そしてストーリーテリングは、教育目的にも広く活用されています（Birch & Heckler, 1996）。

## つながりを生み出すストーリー

この数十年間、過去、現在、未来について子どもたちに伝えるためのストーリーが模索されてきました（Grumet, 1981）。生態学上の危機により、私たちは、人類と自然のつながり、そして神話や精神性、想像力などの内界と、科学、政治、経験的実在などの外界とのつながりについて再考するよう迫られています。現代科学は、複雑な環境問題に取り組んだり、持続可能性を推し進めようと苦闘したりしていますが、そこには発想の転換が求められます。Nanson (2005) は、生態学的ストーリーテリングが持つ可能性と、感情レベルで人びととつながる方法について考察しています。

ストーリーと他の談話との主な違いは、ストーリーはその内容に対する気持ちを導き、感情的な反応を引き起こすということです。これは、学生にとっては他の形式の報告や記録よりも魅力的で記憶に残りやすく、伝わりやすいのです（Egan, 2005）。「ストーリーによって想像力が広がるため、自分以外の視点から世界を見ることができます。人のストーリーを聞くと、同情が生まれ、相手が苦しんだり喜んだりできる意識を持った存在だと認識するのです」（Nanson, 2005, p.34）。責任ある持続可能な生活と関連する学習体験は、ストーリーテリングによってより興味深く、魅力的で意義あるものとなり得るのです。

# 画像を活用したストーリー作りのサイクル

## ステップ1

### 画像の重要な部分を見つける

この写真を撮ったのは誰で、また、なぜこのように撮ったのでしょうか？この写真には誰が写っていますか？

この写真には何が写っていますか？この写真にはどのような感情を引き起こす効果があるでしょうか？被写体に対するあなたの考え方にどのような影響を与えますか？

この写真はどこで撮られたものですか？

この写真はいつ撮られたものですか？季節は？時間帯は？

この写真はなぜ責任ある持続可能な生活の観点から重要なのでしょうか？

### 画像の分析

### 考察と評価

### ストーリー作り

### ストーリーの共有

## ステップ2

### 内容をストーリーとして表現する

ステップ1で得られた情報をもとに、責任ある持続可能な生活と関連するストーリーを作ってみましょう。

何かしらの分かりやすい出だし（「昔々」など）と締めくくり（「めでたしめでたし」など）の言葉を使ってストーリーを構成してみましょう。



## ステップ4

### ストーリーが画像をどれだけ反映しているか

ストーリーが次のことをどれだけ反映しているか、話し合ってみましょう。

- 画像の重要性
- 責任ある持続可能な生活との関連性

ステップ1、2、3で行ったプロセスを振り返ってみましょう。

そのプロセスがあなたに与えた影響を評価してみましょう。考え方に何らかの変化はありましたか？あなたの今後の行動や選択に影響を与えますか？

## ステップ3

### ストーリーを正式な／気軽な方法で共有する

ストーリーを別の人と共有してみましょう。

ストーリーをクラスのグループに伝えてみましょう。

ストーリーを新聞やニュースレターの記事として出版してみましょう。

ストーリーを共有するために動画や音声として記録してみましょう。



# ストーリー作りの例：

タイトル：ケニア、ナイロビの環状交差点

場所：この写真はケニア、ナイロビのミュランガ道路で撮影されました。環状交差点の様子が見える高架道路です。

撮影日：2013年12月4日

撮影者：Abdi Ali Farhan、James Phillip James（ストラスマア大学）



## ストーリー1：

この画像はケニアの首都の交通状況を捉えたものです。都市計画やインフラの整備が不十分なため、このような状況では深刻な渋滞が生じており、結果として生活の質が損なわれています。画像左側を見ると、通勤ラッシュや帰宅ラッシュ時には交通量が多いため、深刻な渋滞が起きることが分かります。多くの人が無駄になった時間を取り戻すため、職場に張り付くようになり、家庭生活の質の低下につながっています。

(Abdi Ali Farhan、James Phillip James)

## ストーリー2：

ケニアで撮影されたこの写真はとても迫力があります。しかし、構図的な観点から言えば、見る側はしばらく経ってから、交通渋滞に気づきます。もしかすると、広々とした空間にいったん注目させた後で、全体像の一部に、車がひしめき合う空間があることに気づくよう意図されたものかもしれません。つまり、この場所で生じている時間のロス、人びとの行為ではなく、不十分な都市計画によるものなのです。では、どうすればこの状況を改善できるのでしょうか？また、建設的な方向に進むための責任ある持続可能な解決策や方法は存在するのでしょうか？

(匿名)



# アクティビティ 1：互いのストーリーを伝え合う

## 学習目的

このストーリーテリングのアクティビティでは、学生が協力し、選んだ画像を用いて責任ある持続可能な生活にまつわるストーリーを発展させ、周りと共有できる内容に仕上げます。

## 必要なもの

- 写真一式（このツールキット、または PERL が過去に発行した「画像とオブジェクト」のツールキット [www.perlprojects.com](http://www.perlprojects.com) 内の適切な写真サンプル参照）
- 大きめの紙
- マーカーペン
- のり
- 「責任ある持続可能な生活」トピックカード（任意）

## 準備

- グループワークができるよう、教室の配置を整えます。
- 学生が写真を選ぶ前に、その周りを歩きながら確認できるよう、大きなテーブルや床の上に写真を並べます。

## アクティビティの進め方

- 1 — 学生は、掲示されている写真の中から 1 枚を選び、選んだ写真をもとに、責任ある持続可能な生活の問題と関連するストーリーを考えます。
- 2 — 学生はペアを作り、思いついたストーリーを、1 人あたり 3 分で伝え合います。ストーリーの内容を本当に理解できているかどうかを確認する以外は、話を途中でさえぎらず、相手の話に耳を傾けてもらうようにします。
- 3 — 各ペアを別のペアと一緒にし、できたグループの中でもう一度ストーリーを伝え合います。
- 4 — 各グループで、すべてのストーリーを一つに組み合わせて新しいストーリーを作ります。グループでストーリーを作成する際は、写真をさまざまな方法でストーリーに組み込むことができます。例えば、写真を連続して使用したり、一つにまとめて前後表示させながら見ていく方法、ストーリーの中で 1 枚の写真を複数回見せる方法があります。
- 5 — 大きめの紙に写真をのりで貼りつけ、グループで作成したストーリーを書き入れ、ストーリーを完成させます。
- 6 — 各グループが自分たちのストーリーをクラスで発表した後、全体で自分たちの考えについて話し合います。

## 応用

- 教員が「責任ある持続可能な生活」トピックカードを使用して学生をサポートしてもかまいません。トピックカードは、例えば、正しい綴りの助言、新出単語の紹介、行き詰まった学生へのアドバイス、責任ある持続可能な生活にまつわる分野やテーマに関心を持てるような動機づけ、ストーリーに含まれる単語のヒント、ストーリー作成時のひらめきやアイデアの提供などに使用することができます。
- トピックカードを使って学生の意欲を喚起することもできます。例えば、各グループに異なるカードを配布し、そのテーマに関するストーリーを書いてもらいます。トピックカードに書かれた単語をどれだけストーリーに盛り込めるか、挑戦させてもいいでしょう。
- ロールカードはツールキットの巻末にあります。このカードを用いて全員をタスクに集中させることで、グループの作業を体系的なものとしてすることができます。

## 発展アクティビティ

すべての学生に同じ写真を与えることも可能です。一人ひとりがその写真にまつわるストーリーを作り、それ以降のステップは上と同じように進めていきます。これにより、同じ写真から作られた複数のストーリーを通じて、多種多様なアイデアや視点に取り組んでもらうことができます。

## 評価／考察

### 学生：

アクティビティの最後に、学生は次のことについて話し合い、考えてます。

- 1 — 今回の経験から学んだこと。
- 2 — 今回のアクティビティによって、責任ある持続可能な生活に対する意識が高まったかどうか。高まった場合、どのように高まったのか。数週間後、学生は次のことについて話し合い、考えます。
- 3 — 今回のアクティビティの結果、何らかの行動を起こしたり、変化を起こしたりするようになったかどうか。そうなった場合、どのようなことか。

### 教員：

教員は次のことについて検討します。

- 1 — 学習目的が達成されたかどうか。
- 2 — このアクティビティを別の学生グループともう一度行う際、内容を変えられるとすれば、どのような部分を変更するか。
- 3 — この学生グループの次の学習プロセスはどのステージか。

他の評価ツールやアクティビティは、ツールキットの最後に掲載しています。

# 「責任ある持続可能な生活」トピックカード

カードに印刷して切り取ってください。

## 消費



### キーワードトピック

ニーズ	欲求
持続可能な	持続不可能な
食料	サービス
資源効率	責任ある
消費者行動	健康
最小化	病気／疾病
無駄	栄養不良の
飢え	肥満
生産	廃棄
二酸化炭素排出量	修理
リサイクル	再利用
削減	欲望
布地	物品
ファッション	デザイン
エネルギー	負債
水	旅行
フェアトレード	贈答品
現地生産	雇用

## 地域社会と国際社会



### キーワードトピック

社会的単位	歴史
相互関係	教育
保護	平等
住宅	支援
定住	建物
町	取引
市	家族
村	学校
スラム街	経済
衛生	健康
アイデンティティ	死亡率
文化	ネットワーク
負債	援助
団体	社会化
土着の	貧困
農村の	都市の
文化	人種
ジェンダー	労働条件
児童労働	責任

## 生物多様性



### キーワードトピック

環境	生態系
持続可能な	低下
汚染	分解
ライフサイクル	競争
捕食	植生
種	天然の
蓄え	娯楽
保護	生息地
共生	開拓
規制	バランス
動物	絶滅した
植物	個体数
遺伝子	地形
繁殖する	侵入生物
破壊	人間の影響
進化	象徴種
再生	気候変動
気温	狩猟
責任	生態系サービス
食物網	農業

## 気候変動



### キーワードトピック

エネルギー	二酸化炭素
化石燃料	温室効果ガス
汚染物質	地球温暖化
有害な	輸送
自然の	温暖化
資源	極度
気象パターン	大気
水	グローバルな
海	気温
氷	排出
雨	海水面
雪	移住
風	洪水
干ばつ	火事
健康	責任
持続可能性	絶滅
破壊	貧困
飢え	適応
対立	未来
農業	砂漠化



# アクティビティ 2: ストーリーの「感覚」

## 学習目的

このアクティビティでは、学生をチームに分け、責任ある持続可能な生活にまつわる写真について批判的に評価してもらいます。学生は人の興味を引くようなストーリーを作り、他のグループと共有します。その後、議論とフィードバックを行い、これをもとに最初の見解についてさらに検討します。

## 必要なもの

- 写真一式（このツールキット、または PERL が過去に発行した「画像とオブジェクト」のツールキット [www.perlprojects.com](http://www.perlprojects.com) 内の適切な写真サンプル参照）
- 感覚アクティビティカード
- フリップチャートとマーカーペン
- ペンと紙
- 粘着タック

## 準備

- グループワークができるよう、教室の配置を整えます。
- 感覚アクティビティカード（次ページ）を印刷し、折れ線に沿って切り取ります。
- 写真を 1 枚選んでコピーを作成し、各グループに配布します。すべてのグループに同じ写真が配られていることを確認してください。

## アクティビティの進め方

### ステージ 1

- 1 — 学生を一組 4 人ほどのグループに分けます。
- 2 — 各グループに同じ写真 1 枚と、異なる感覚アクティビティカード 1 枚が配られることを説明します。また、フリップチャートとマーカーペンも各グループに配布します。
- 3 — 各グループの学生は、感覚アクティビティカードに書かれた説明をよく読み、その視点をもとに写真のストーリーを考え、それをフリップチャートに記入します。必要であれば、まず大まかなストーリーから記入してもかまいません。
- 4 — すべてのグループがストーリーを記入し終わったら、各グループがフリップチャートを壁に掲示し、クラスの全員とストーリーを共有します。

### ステージ 2

- 5 — 各グループで、他のグループから提示されたさまざまな視点について話し合います。
- 6 — 各グループは各自のストーリーを書き換えたり、編集したりすることで、ストーリーの内容が深まったり、責任ある持続可能な生活との関連性やつながりを高められたりするような視点を盛り込みます。

## 応用

- ロールカードはツールキットの巻末にあります。このカードによって全員をタスクに集中させることで、グループの作業を構造化して体系的なものとすることができます。

## 評価／考察

### 学生：

アクティビティの最後に、学生は次のことについて話し合い、考えます。

- 1 — 今回の経験から学んだこと。
  - 2 — 今回のアクティビティによって、責任ある持続可能な生活に対する意識が高まったかどうか。高まった場合、どのように高まったのか。
- 数週間後、学生は次のことについて話し合い、考えます。
- 3 — 今回のアクティビティの結果、何らかの行動を起こしたり、変化を起こしたりするようになったかどうか。そのようになった場合、どのようなことか。

### 教員：

教員は次のことについて検討します。

- 1 — 学習目的が達成されたかどうか。
- 2 — このアクティビティをもう一度行う際、内容を変えられるとしたら、どのような部分を変更するか。
- 3 — この学生グループの次の学習プロセスはどのステージか。

他の評価ツールやアクティビティは、ツールキットの最後に掲載しています。



# 感覚アクティビティカード

カードに印刷して切り取ってください。

## 目

写真を見て、次のことを考えてみてください。

- ? その写真の中で何が起っていますか？または、何が起っているように見えますか？
- ? 写真を通して過去や未来を見ることができると想像してください。写真を撮る前と撮った後に何が見えたと思いますか？そのストーリーを教えてください。
- ? その写真と、責任ある持続可能な生活はどのように関連していますか？

## 耳

写真を見て、次のことを考えてみてください。

- ? 今、どのような状態ですか？
- ? 写真から音が聞こえてくると想像してください。どのような雑音や会話が聞こえてきますか？
- ? 写真を通して過去や未来の音を聞くことができると想像してください。写真を撮る前と撮った後にどのような雑音や会話が聞こえたと思いますか？そのストーリーを教えてください。
- ? その写真と、責任ある持続可能な生活はどのように関連していますか？

## 手

写真を見て、次のことを考えてみてください。

- ? 今、どのような状態ですか？
- ? 写真の中のすべてのものに触れたり、感じたりできると想像してください。そして、どのように感じるかを説明してください。
- ? 写真を通して過去や未来に触れたり、感じたりできると想像してください。
- ? 写真を撮る前と撮った後にその手にどのような感触があったと思いますか？そのストーリーを教えてください。
- ? その写真と、責任ある持続可能な生活はどのように関連していますか？

## 鼻

写真を見て、次のことを考えてみてください。

- ? 今、どのような状態ですか？
- ? 写真の中のあらゆるものの匂いを嗅ぐことができると想像してください。その匂いを説明してください。
- ? 写真を通して過去や未来の匂いを嗅ぐことができると想像してください。写真を撮る前と撮った後に何の匂いを嗅いだと思いますか？そのストーリーを教えてください。
- ? その写真と、責任ある持続可能な生活はどのように関連していますか？

## 足

写真を見て、次のことを考えてみてください。

- ? 今、どのような状態ですか？
- ? 写真の中を歩くことができると想像してください。足にどのような感触がありますか？また、今どこに立っていますか？
- ? 写真を通して過去や未来をその足で歩けると想像してください。
- ? 写真を撮る前と撮った後にその足にどのような感触があったと思いますか？そのストーリーを教えてください。
- ? その写真と、責任ある持続可能な生活はどのように関連していますか？

## 感情

写真を見て、次のことを考えてみてください。

- ? 今、どのような状態ですか？
- ? 写真の中で起こっていることを感情の面で感じられると想像してください。そして、その気持ちを説明してください。
- ? 写真を通して過去や未来を感じるできると想像してください。写真を撮る前と撮った後にどのような感情があったと思いますか？そのストーリーを教えてください。
- ? その写真と、責任ある持続可能な生活はどのように関連していますか？





# アクティビティ 3：身の回りにあるモノに隠されたストーリー

## 学習目的

このアクティビティでは、身の回りのモノ／製品、それらが世界に及ぼす影響を再検討します。学生グループは、指定されたモノ／製品を調査、評価、判断する探求型学習に取り組むことで、責任ある持続可能な生活について理解と体系的思考を深めていきます。

## 必要なもの

- 身の回りにあるモノ／製品（チョコレートや携帯電話、靴など）やモノが写った写真（このツールキットに付属の写真サンプル参照）
- それぞれのモノに関する質問リスト。質問のサンプルが付属していますが、教員がオリジナルの質問を作成してもかまいません。
- ペン
- 世界地図または地球儀（任意）

## 準備

- グループワークができるよう教室の配置を整え、インターネットに接続できるようにします。
- 各グループに配るモノ、またはモノが写った写真を選び、質問などの必要なものをすべて用意します。

## アクティビティの進め方

- 1 — 学生を4、5人のグループに分けます。
- 2 — モノ／製品、またはモノ／製品が写った写真と、質問リストを各グループに配布します。
- 3 — 各グループの学生は、配られたモノ／製品を見て、質問リストに対する回答を調べます。学生は、考え得る回答をブレインストーミングしたり、インターネットで回答を探したりしてもかまいません。回答はそれぞれテンプレートのワークシートに記録します。
- 4 — 学生は各自のワークシートを掲示し、調べて分かったことにまつわるストーリーを周りの学生と共有します。

## 応用

- 学生の能力や関心に応じて質問を選択したり、書き出したり、採点したりしてもかまいません。
- 高学年や優秀な学生に対しては、さまざまな素材や原料で作られたモノ／製品（例：携帯電話やトースター）など、より難易度の高いモノ／製品を題材として使用することもできます。
- ロールカードはツールキットの巻末にあります。このカードによって全員をタスクに集中させることで、グループの作業を体系的なものとすることができます。

## 発展アクティビティ

- 各グループは、トピックのモノ／製品の原産地がどこであるかを、世界地図や地球儀で探します。

## 評価／考察

### 学生：

アクティビティの最後に、学生は次のことについて話し合い、考えます。

- 1 — 今回の経験から学んだこと。
- 2 — 今回のアクティビティによって、責任ある持続可能な生活に対する意識が高まったかどうか。高まった場合、どのように高まったのか。数週間後、学生は次のことについて話し合い、考えます。
- 3 — 今回のアクティビティの結果、何らかの行動を起こしたり、変化を起こしたりするようになったかどうか。そのようになった場合、どのようなことか。

### 教員：

教員は次のことについて検討します。

- 1 — 学習目的が達成されたかどうか。
- 2 — このアクティビティをもう一度行う際、内容を変えられるとしたら、どのような部分を変更するか。
- 3 — この学生グループの次の学習プロセスはどのステージか。

他の評価ツールやアクティビティは、ツールキットの最後に掲載しています。

## アイデアを引き出すための質問（例）

- どこで生産／製造されましたか？
- どのような素材でできていますか？
- 生産により地球環境が汚染されていますか？
- 製造に使用される素材の原産地はどこですか？
- 素材は何らかの方法で加工されていますか？されている場合、どのように加工されていますか？
- どのようにして現在の場所に運ばれてきましたか？
- 複数の使いみちがありますか？複数回使用できますか？
- 使用後にはどのように扱われますか？
- 再利用／リサイクル／別用途に転用／他者に譲渡／修理／リメイク／再設計できる可能性はありますか？
- 日用品ですか？それとも贅沢品ですか？
- 誰を対象とするものですか？
- 廃棄した場合、地球環境に危害をもたらしますか？
- 製造に携わる人たちは公正に扱われていますか？その人たちは何らかのリスク要因にさらされていますか？



与えられた質問への回答を所定の欄に記入してください。

質問 1:

回答:

質問 2:

回答:

質問 3:

回答:

質問 4:

回答:

質問 5:

回答:



選んだモノの写真をここにのりで貼りつけてください

質問 6:

回答:

質問 7:

回答:

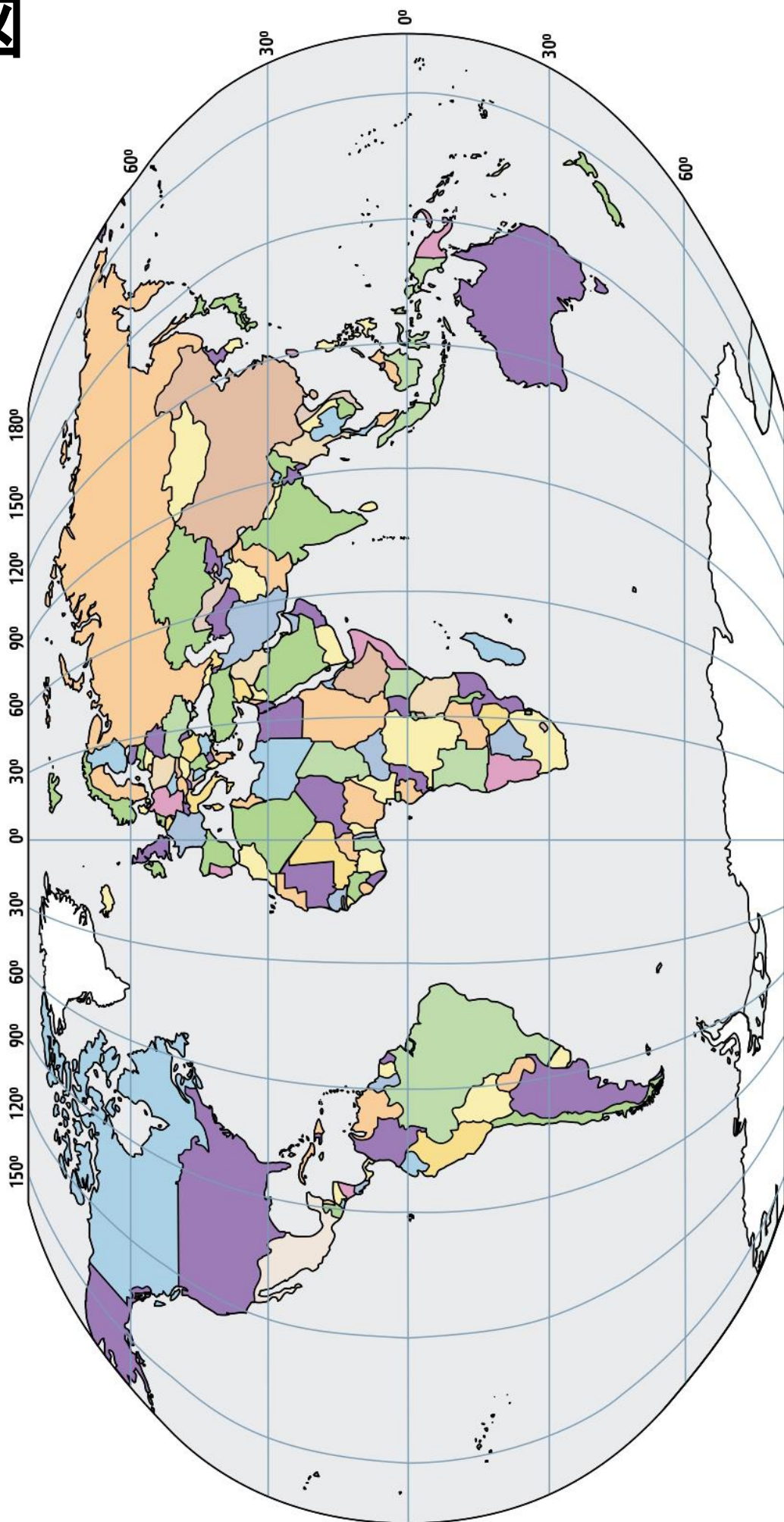
質問 8:

回答:





# 世界地图





# アクティビティ 4：ストーリーの語り手

## 学習目的

このアクティビティを通じ、学生一人ひとりが「ビジュアルリテラシー」やアクティブリスニング、優れたコミュニケーションスキルを身につけることができます。学生はこれらのスキルを活用し、責任ある持続可能な生活について選択した写真と、その写真を説明するために作成したストーリーを組み合わせます。

## 必要なもの：

- 人数分の写真一式（このツールキット、または PERL が過去に発行した「画像とオブジェクト」のツールキット [www.perlprojects.com](http://www.perlprojects.com) 内の写真サンプル参照）
- ペンと紙
- 粘着タック
- 「責任ある持続可能な生活」トピックカード

## 準備：

- 必要なものを揃えます。
- 使用する写真を選んで準備します。

## アクティビティの進め方：

### ステージ 1：

- 1 — 学生たちに写真サンプルを 1 枚見せ、写真に写っているものについて、責任ある持続可能な生活と絡めて説明してもらいます。このステップは、次のステップに進むための予行演習となるものです。
- 2 — 写真を裏向きにして一人ひとりに配布します。配られた写真を誰にも見せないよう、指示します。
- 3 — 紙とペンを一人ひとりに配布します。責任ある持続可能な生活に絡めた「ストーリー」の説明文を 5 分間でできるだけ多く書き出させ、その写真のストーリーについて説明してもらいます。
- 4 — すべての写真と説明文を学生から回収します。

### ステージ 2：

- 5 — 学生の写真を粘着タックでホワイトボードに貼りつけ、各写真に番号を振ります。
- 6 — 学生が書いた各説明文をランダムに読み上げることを全員に説明します。説明文を読み上げている間、それが何番の写真に関するものであるかを推測してもらい、選んだ番号を紙に記録するよう伝えます。
- 7 — すべての説明文を読み上げた後に写真と一致させたら、学生の回答を見ていきます。
- 8 — 写真や説明文、正解数について話し合います（「説明や推測が難しかった写真はどれか」など）。

## 応用

- 学生は、このツールキットの前半にある「責任ある持続可能な生活」トピックカードを、ステップ 3 で使用してもかまいません。
- このアクティビティは 2、3 人のグループで行うこともできます。

## 評価／考察

### 学生：

アクティビティの最後に、学生は次のことについて話し合い、考えます。

- 1 — 今回の経験から学んだこと。
- 2 — 今回のアクティビティによって、責任ある持続可能な生活に対する意識が高まったかどうか。高まった場合、どのように高まったのか。数週間後、学生は次のことについて話し合い、考えます。
- 3 — 今回のアクティビティの結果、何らかの行動を起こしたり、変化を起こしたりするようになったかどうか。そのようになった場合、どのようなことか。

### 教員：

- 1 — 教員は次のことについて検討します。
- 2 — 学習目的が達成されたかどうか。
- 3 — このアクティビティをもう一度行う際、内容を変えられるとしたら、どのような部分を変更するか。
- 4 — この学生グループの次の学習プロセスはどのステージか。

他の評価ツールやアクティビティは、ツールキットの最後に掲載しています。

# アクティビティ 5：国境を超えたストーリー

## 学習目的

このアクティビティでは、ミレニアム開発目標を魅力的かつ有意義な方法で取り上げます。これにより、グローバル化した世界の観点から、学生の批判的思考を養うことができます。学生はシンボルや写真、ストーリーを用いて責任ある持続可能な生活のトピックに対するコミットメントを示し、ミレニアム開発目標達成の進捗状況について学びます。

## 必要なもの

- MDG シンボルカードのセット（複数）
- MDG 関連カードのセット（一つ）
- 小さな色紙（ラベルとして使用）：紙は、MDG のシンボルカラー（黄色、薄緑色、深緑色、水色、紺色、紫色、赤色、茶色）と同じ色である必要があります。
- 粘着タック
- 紙、鉛筆
- 「責任ある持続可能な生活」トピックカード
- 写真一式

## 準備

- グループワークができるように教室の配置を整えます。
- MDG のシンボルを薄いカードに印刷して切り取り、MDG シンボルカードを作ります。カードを1セットずつ各グループに配布します。丈夫なカードが必要な場合、ラミネート加工してください。
- MDG 関連カードのページを薄いカードに印刷して切り取り、カードを作っていきます。クラス全体に必要なのは16枚のカード一式（1セット）のみです。丈夫なカードが必要な場合、ラミネート加工してください。

## アクティビティの進め方

### ステージ1：

- 1 — 学生をグループに分け、各グループに MDG シンボルカードを1セットずつ配布します。学生はそのシンボルについて調べ、シンボルがそれぞれ何を表すのか、ブレインストーミングします。
- 2 — 次に、16枚の MDG 関連カードが1セットあることを説明します。各関連カードには、MDG シンボルカードのいずれかと関連する説明文が記載されています。関連カードを裏向きにし、テーブルの上に重ねていきます。
- 3 — 各グループの代表者は重ねられたカードから関連カードを取り、グループに持ち帰ります。16枚のカードは、グループ間でできるだけ均等になるように分けます。
- 4 — 各グループは、自分たちが持っている関連カードと MDG シンボルカードをそれぞれ一致させます。
- 5 — 各グループがカードを一致させ終えたら、その結果や、難しいと感じたものなどを話し合って共有します。

### ステップ4の正答

MDG1 のシンボル と一致する MDG 関連カード <b>A, B, D, F, L, N</b>	MDG2 のシンボル と一致する MDG 関連カード <b>K, O</b>	MDG3 のシンボル と一致する MDG 関連カード <b>I, O, P</b>	MDG4 のシンボル と一致する MDG 関連カード <b>H, I</b>
MDG5 のシンボル と一致する MDG 関連カード <b>I</b>	MDG6 のシンボル と一致する MDG 関連カード <b>C, J, N</b>	MDG7 のシンボル と一致する MDG 関連カード <b>G</b>	MDG8 のシンボル と一致する MDG 関連カード <b>E, L, M</b>

### ステージ2：

- 6 — 写真一式を教室中の壁に掲示します。
- 7 — 色紙のセットを各グループに配布します。紙の色は各ミレニアム開発目標と一致し、各ミレニアム開発目標を表すものです。
- 8 — 学生はグループに分かれて写真にラベルを貼り、それぞれの写真がどの MDG（一つまたは複数）と関連していると思うか、述べます。その上で、MDG と一致する色の紙を選び、それを該当する写真に貼りつけます。
- 9 — すべての写真にラベルを貼り終わるまで続けます。
- 10 — 教員が、たくさん紙が貼られた写真やさまざまな色の紙が貼られた写真をいくつか選び、その写真について学生と一緒に議論や考察をします。

## 応用

- MDG 関連カードに出てくる新しい単語や難しい単語については、学生がアクティビティの間、ワードバンクや用語集に記録します。
- ロールカードはツールキットの巻末にあります（25 ページ）。このカードによって全員をタスクに集中させることで、グループの作業を体系的なものとして行うことができます。

## 発展アクティビティ

- 教員が写真を裏向きにして置き、各グループの代表者がその中から3、4枚を選び、グループに持ち帰ります。次に、学生に「責任ある持続可能な生活」トピックカード（11 ページ）のコピーを配布します。学生はトピックカードから10以上の単語を選び、その単語と写真を結びつけたストーリーを A4 サイズのページ半分に書き出します。



## 評価／考察

### 学生：

アクティビティの最後には、学生は次のことについて話し合い、考えます。

- 1 - 今回の経験から学んだこと。
- 2 - 今回のアクティビティによって、責任ある持続可能な生活に対する意識が高まったかどうか。高まった場合、どのように高まったのか。数週間後、学生は次のことについて話し合い、考えます。
- 3 - 今回のアクティビティの結果、何らかの行動を起こしたり、変化を起こしたりするようになったかどうか。そのようになった場合、どのようなことか。

### 教員：

教員は次のことについて検討します。

- 1 - 学習目的が達成されたかどうか。
- 2 - このアクティビティをもう一度行う際、内容を変えられるとしたら、どのような部分を変更するか。
- 3 - この学生グループの次の学習プロセスはどのステージか。

他の評価ツールやアクティビティは、ツールキットの最後に掲載しています。

### MDG シンボルカード

# MDG シンボルカード

カードに印刷して切り取ってください。



1



極度の貧困と飢餓の撲滅

2



普遍的な初等教育の実現

3



ジェンダー平等の推進と女性の地位向上

4



幼児死亡率の引き下げ

5



妊産婦の健康状態の改善

6



HIV／エイズ、マラリアその他の疫病の蔓延防止

7



環境の持続可能性の確保

8



開発のためのグローバル・パートナーシップの構築



# MDG 関連カード

カードに印刷して切り取ってください。

(A)



## 極度の貧困の中で暮らす人びとの割合は世界的に半減

世界的な貧困削減目標は、予定より5年前倒しで達成されました。

開発途上地域では、1日1ドル25セント未満で暮らす人びとの割合が1990年には47%だったのが、2010年には22%へと低下しています。

1990年から2010年にかけて、極度の貧困状態で暮らす人びとはおよそ7億人減ったこととなります。

(B)



## 20億人以上が改良飲料水源にアクセス可能に

過去21年間で、21億人以上が改良された飲料水源を利用できるようになりました。

全世界で飲料水用に改良された水源を利用する人びとの割合は、1990年には76%だったが、2010年には89%にまで上昇しています。

飲料水に関するミレニアム開発目標は、急激な人口増にもかかわらず、予定より5年前倒しで達成されたこととなります。

(C)



## マラリア・結核対策でも長足の進歩

世界のマラリアによる死亡率は2000年から2010年にかけて、25%以上低下しました。

この期間に110万人がマラリアによる死亡を免れたと見積もられます。

結核による死亡率も、世界レベル、また、一部の地域で、2015年までに1990年水準の半分まで低下したと見られます。

1995年から2011年にかけて、結核患者延べ5,100万人の治療が成功し、2,000万人の命が救われました。

(D)



## 開発途上地域の都市・大都市圏スラム居住者の割合が低下

2000年から2010年にかけて、2億人以上のスラム居住者が改良水源、衛生施設、耐久性のある家屋または十分な居住空間を手に入れたことで、ミレニアム開発目標の1億人を超える成果が達成されました。

世界中の多くの国々で、都市部スラム居住者の割合削減に大きな進展が示されています。

(E)



## 債務負担の軽減と貿易環境の改善で開発途上国にとって公平な競争条件が実現

開発途上国全体の輸出収入に対する債務返済額の割合は、2000年には約12%だったが、2011年には3.1%にまで低下しています。

2011年には関税免除の市場アクセスも拡大し、輸出全体の80%に達しました。

後発開発途上国の輸出品は、最も大きな恩恵を受けています。

平均関税率も史上最低の水準にあります。

(F)



## 飢餓削減目標達成まであと一歩

全世界の栄養不良者の割合は、1990~1992年に23.2%だったが、2010~2012年には14.9%まで低下しています。

取り組みに再び拍車がかかっていることから、「飢餓に苦しむ人びとの割合を2015年までに半減させる」という目標は達成可能と見られます。

とはいえ、世界では今でも8人に1人が慢性栄養不良の状態にあります。

## (G)



### 環境の持続可能性への深刻な脅威で新たなレベルのグローバル協力が不可欠に

全世界の二酸化炭素 (CO2) 排出量は加速度的に増大し、現在の排出量は 1990 年の水準を 46%以上も超過しています。

森林の消失も猛烈なペースで続いています。海洋漁業資源の乱獲により、漁獲高も減少しています。

保護区に指定されている陸地と海洋の面積は増えているものの、個体数と分布がともに縮小していることで、鳥類、哺乳類などの生物種がこれまで以上のスピードで絶滅へと追いやられています。

## (H)



### 幼児生存率の大幅上昇の一方、最若年世代への義務は未達成

世界の 5 歳未満幼児死亡率は、1990 年には出生千人当たり 87 人だったのが、2011 年には 51 人へと 41%減少しました。

目覚ましい成果は示されているものの、「幼児死亡率を 2015 年までに 3 分の 2 削減する」という目標の達成に向けては、さらなる取り組みが求められます。幼児の死亡は、最貧地域の生後 1 か月以内の乳児に集中する傾向にあります。

## (I)



### ほとんどの妊産婦死亡は予防可能にもかかわらず、この分野での進展は不十分

世界の妊産婦死亡率は、1990 年に出生 10 万人当たり 400 人だったのが 2010 年には 210 人と、20 年間で 47%低下しました。ミレニアム開発目標の「4 分の 3 削減」を達成するには、加速度的な介入の拡大と、女性と子どもに対する政治的支援の強化が必要となります。

## (J)



### 求められる抗レトロウイルス療法と HIV 感染予防に関する知識の拡大

新規 HIV 感染者数は減少しているものの、2011 年末時点の HIV 感染者数は 3,400 万人に上ると見られます。

「2010 年までに抗レトロウイルス療法を必要な人びと全員に普及する」というミレニアム開発目標は達成できませんでしたが、このままのペースで推移すれば、2015 年までにこの目標を達成することは可能です。

最終的な目標は HIV のまん延を防止することにあります。HIV と感染防止に関する知識は受け入れがたいほどの低水準にとどまっています。

## (K)



### 初等教育を受ける権利を奪われた子どもの数は依然過大

2000 年から 2011 年にかけて、学校に通えない子どもの数は 1 億 200 万人から 5,700 万人へとほぼ半減しました。

しかし、学校に通えない子どもの数の減少ペースは、ここに来て大きく落ち込んでいます。

進展が行き詰まったことで、2015 年までに世界中で初等教育を完全に普及させるという目標の達成の見込みは遠のいています。

## (L)



### 衛生分野で目覚ましい成果も全体としてはまだ不十分

1990 年から 2011 年にかけて、19 億人が公衆便所、水洗トイレその他の改良衛生施設を利用できるようになりました。

こうした成果にもかかわらず、ミレニアム開発目標の達成には、より大幅な進展が必要となっています。

そのカギを握るのが、屋外排便をなくすこと、適切な政策を策定することです。

## (M)



### 援助総額減少で最貧国に深刻な影響

2012年の先進国から開発途上国への正味援助額は、合計1,260億ドルとなりました。

これは2011年比4%減の数字ですが、2011年の援助総額も2010年の水準を2%下回っていました。これにより不当に大きな影響を被っているのが、後発開発途上国です。

2012年の後発開発途上国に対する二国間政府開発援助（ODA）は13%減の約260億ドルとなっています。

## (N)



### 縮まらぬ農村・都市格差—リプロダクティブ・ヘルス・サービスや安全な飲料水へのアクセスで特に深刻

2011年、出産に熟練医療従事者が付き添った割合は、農村部では53%にとどまるのに対し、都市部では84%に上りました。

改良飲料水源を利用できない人びとの83%は、農村コミュニティで暮らしています。

## (O)



### 最貧層の子どもたちに学校に通えない傾向

最貧層世帯の子どもが学校に通えない割合は、最富裕層世帯の3倍以上に達します。

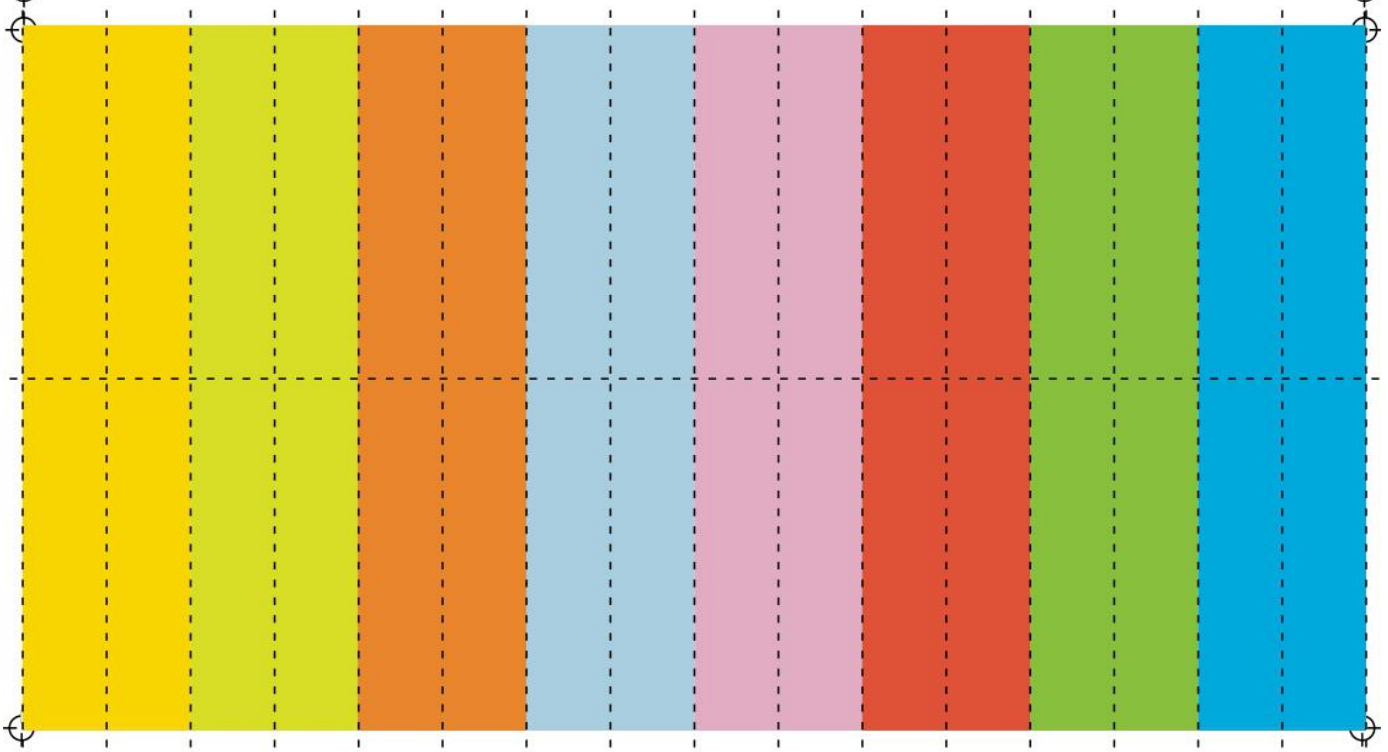
小中学校就学年齢の子どもについては、最富裕層世帯を含め、女児のほうが男児よりも学校に通えない確率が高くなっています。

## (P)



### 生活上の意思決定で続くジェンダー間格差

政府の最高意思決定レベルから家庭に至るまで、公的領域、私的領域を問わず、女性は依然として、男性と平等の立場で自らの暮らしに影響する決定に参画する機会を奪われています。





# アクティビティ 6：一面記事のストーリー

## 学習目的

このアクティビティでは、学生がチームを組み、クリエイティブ・ライティングのタスクに取り組みます。このタスクを通して、関連する写真や与えられたテーマを評価・批評することにより、責任ある持続可能な生活に関する意識や考察力を養うことができます。

## 必要なもの

- 写真一式（一人につき最低1セット必要ですが、多めに用意して選択肢を増やすと望ましい）：写真は教員が用意することもできますが、前もって学生が各自で撮った写真を教員に渡しておいてもらい、このアクティビティに使用することもできます。
- ペンと紙、またはIT機器（新聞記事／ショートストーリーの作成に使用）
- 「責任ある持続可能な生活」トピックカード（11ページ）（任意）

## 準備

- 教室をグループワークができる環境に整えます。
- 学生が写真を選ぶ前に、その周りを歩きながら確認できるよう、大きなテーブルや床の上に写真を並べます。

## アクティビティの進め方

- 1 — クラス全員がジャーナリストとなり、責任ある持続可能な生活に関する特集記事を執筆するよう、学生に伝えます。
- 2 — 学生は並べられた写真を見て、テーマと関連していると思うものを1枚選びます。選んだ写真は、責任ある持続可能な生活のある側面への認識を促す記事／ストーリーの一部として、新聞に掲載します。
- 3 — 学生を4人ほどのグループに分け、グループの各メンバーは、自分が選んだ写真を互いに見せながら、その写真を新聞記事／ストーリーに使用したいと思った理由を説明します。
- 4 — 学生に、今から次のことをグループで行うよう説明します。
  - a — グループごとに写真を1枚だけ選ぶ
  - b — 写真のキャプションを書く
  - c — 写真にまつわる短い記事／ショートストーリーを書く短い記事／ショートストーリーの内容は事実でも創作でもかまいませんが、責任ある持続可能な生活のテーマと関連し、そのテーマ独自の側面に対する認識を促すものである必要があります。記事／ストーリーの例としては、良いニュースを伝えるストーリー、変化の必要性を訴える内容、警鐘を鳴らすもの、大惨事の報道などが挙げられます。
- 5 — すべてのグループが記事／ストーリーを書き終えたら、自分たちの記事／ストーリーを互いに発表します。
- 6 — 互いの記事／ストーリーを聞きながら、どの記事／ストーリーを一面の特集記事として採用するか、検討します。すべてのグループが発表を終えた際に、クラス投票で一面に採用する記事／ストーリーを決定してもかまいません。
- 7 — 各グループは、自分たちの記事をすべて載せた新聞を印刷版か電子版のいずれかにまとめ、アクティビティを終了します。

## 応用

- このツールキットの前半にある「責任ある持続可能な生活」トピックカード（11ページ）から、記事に使用できそうなトピックや単語を選びながら記事を書いてかまいません。
- また、「責任ある持続可能な生活」トピックカードを使用し、特定のテーマに関する記事の作成に挑戦してもらってもいいでしょう。
- ロールカードはツールキットの巻末にあります。このカードによって全員をタスクに集中させることで、グループの作業を体系的なものとしてできます。

## 評価／考察

### 学生：

アクティビティの最後に、学生は次のことについて話し合い、考えます。

- 1 — 今回の経験から学んだこと。
- 2 — 今回のアクティビティによって、責任ある持続可能な生活に対する意識が高まったかどうか。高まった場合、どのように高まったのか。数週間後、学生は次のことについて話し合い、考えます。
- 3 — 今回のアクティビティの結果、何らかの行動を起こしたり、変化を起こしたりするようになったかどうか。そのようになった場合、どのようなことか。

### 教員：

教員は次のことについて検討します。

- 1 — 学習目的が達成されたかどうか。
- 2 — このアクティビティをもう一度行う際、内容を変えられるとしたら、どのような部分を変更するか。
- 3 — この学生グループの次の学習プロセスはどのステージか。

他の評価ツールやアクティビティは、ツールキットの最後に掲載しています。





# アクティビティ 7：各自のロール（役割）

## 学習目的

ロールカードを活用することで、学生にグループへの積極的な参加を促します。これにより、グループディスカッションやグループアクティビティに関する多くのタスクやロールに対する認識を高めることができます。こうした課題やロールを実践する機会にもなります。ロールカードによって全員をタスクに集中させることで、グループの作業を構造化して体系的なものとすることもできます。

## 必要なもの

- ロールカード（各グループに1セット）

## 準備

- ツールキットに付属しているロールカードを、色のついた薄いカードに印刷します。カードの色は1セットごとに異なるものとします。これにより、授業終了後の片付けや次の授業の準備の際に、カードをセットごとに整理しやすくなります。
- 代わりに、教員がオリジナルのロールカードをデザインしてもかまいません。

## アクティビティの進め方

教員は、グループワークやディスカッションを伴うアクティビティにロールカードを使用するかどうか、決めることができます。

- 1 — 学生を6人ずつのグループに分けます。各グループにロールカードを1セットずつ配布します。
- 2 — テーブルの中央にロールカードを裏向きにして置き、グループ各メンバーがロールカードを1枚ずつ取ります。
- 3 — 1分以内に、学生は自分のロールカードの内容に目を通します。
- 4 — ロールについて質問があるかどうかを尋ね、必要があれば説明します。
- 5 — 次に、アクティビティを行っている間は、カードに書かれたロールに従うよう伝えます。
- 6 — ディスカッションやアクティビティの終わりに、教員はロールについて詳しく説明し、アクティビティの感想などについて話し合います。

## 1グループが6人未満の場合、次の方法で行います。

- 1人で複数のロールカードを取ることもできます。例えば、読み上げ係と時間係、記録係と発表係のロールを同じ学生が担当してもかまいません。
- 学生がロールカードを自主的に多めに取ってもかまいませんし、教員がグループの特定の学生に多めにカードを割り当てることもできます。
- 教員は、ロールカードのセットから1枚取り除くこともできます。

## ロールカードの別の使い方

- テーブルの中央に裏向きに重ねられたロールカードから1枚取ってもらう代わりに、教員がロールカードを学生に直接渡してもかまいません。教員はこの場合、特定のロールを担当する人物を自分の裁量で選ぶことができます。この方法は、各自のロールを実践している学生を時間をかけて観察したい場合に効果的です。また、教員は、各学生が担当したロールと、そのロールをどの程度うまく担えたかを記録することもできます。
- ロールカードをテーブルの上に表向きにして並べることで、学生が各ロールを確認した上で担当したいものを選ぶようにしてもかまいません。学生が関心を示すロールを観察するのに効果的です。
- 他にどのようなロールを追加した方がよいかを学生に尋ね、それをセットに追加することもできます。
- ロールについて批評させ、ロールカードに追加すべき情報を挙げてもらうことも可能です。
- ロールカードのセットから取り除いた方がよいと思われるロールを挙げてもらってもかまいません。

## 評価／考察

### 学生：

アクティビティの最後に、学生は次のことについて話し合い、考えます。

- 1 — アクティビティ／ディスカッションにロールカードを使用することで、アクティビティ／体験の質は向上したか。ロールカードは学習の役に立ったか。役立ったのであれば、どのように役に立ったか。

### 教員：

教員は次のことについて検討します。

- 1 — アクティビティ／ディスカッションにロールカードを使用することで、学習目的の達成に役立ったか。
- 2 — ロールカードをもう一度使用する際に内容を変えられるとしたら、どのような部分を変更するか。



# ルールカード

カードに印刷して切り取ってください。

## 読み上げ係



- 与えられた問題や疑問、課題をグループ内で読み上げる
- 必要に応じて何度も読み上げ、グループがやるべきことを終えられるようにする

## 応援係 (ファシリテーター)



- グループのメンバー全員がディスカッション/アクティビティに参加しているかどうかを観察する
- メンバー全員に参加を促す
- アクティビティに貢献していないメンバーを見つけたら、その人に意見をもらったり、貢献したりしてもらおう

## 時間係



- ディスカッション/アクティビティの配分時間を管理する
- 時間を一定間隔でグループに伝え、すべての作業を終えられるようにする
- 時間が半分を切ったら、それを知らせる
- 残り1分、2分になったら最後の注意喚起を行う

## 記録係



- ディスカッションでグループのメンバーから出されたアイデアをすべて記録する
- メモを取り、指摘事項を記録する
- メンバー全員がディスカッションの内容を把握できるよう、フリップチャートを使用してもかまわない

## 報告係 / 発表係



- 自分のグループで提示されたアイデア / 結果をクラスと共有する
- 記録係によるメモや指摘事項を参考にしながら、クラスと共有する

## 観察係



- 自分のグループを注意深く観察する
- グループの行動を記録する
- グループのメンバーがどれぐらい協働 / 交流しているか
- メモを取る

# ストーリーの評価

## E1 : KWL ツール (K=Know [知っていること]、W=Want to Know [知りたいこと]、L=Learnt [知ったこと])

考察と評価に関する本ワークシートの最初の二つの欄には、アクティビティの紹介が終わった後に学生が記入します。KWL法は、学生の「最初の予備知識、スキル、経験 (K)」、「対象となるアクティビティの学習目的 (W)」、「アクティビティによって達成された学習 (L)」に着目した教育手法です。最後の欄には、アクティビティが終了し、グループのフィードバックが行われた後に記入します。(Ogle 1986)

<b>K</b>	知っていること
<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	
<b>W</b>	知りたいこと
<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	
<b>L</b>	今日知ったこと
<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	

## E2 : 1 分間の自己省察と自己評価

<b>1 分間の自己省察と自己評価</b>	
次の質問に 1 分間で回答してください。	
アクティビティの主要なポイントは何でしたか？	
<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	
アクティビティを終えて残った疑問はどのようなものですか？	
<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	
これは無記名です。このフィードバックはアクティビティの最後に提出してください。未解決の疑問については、今後のセッションで教員が対応する可能性があります。	



## E3 : ストーリーの考察と評価

このワークシートを使ってストーリーを評価してください。

ストーリーのタイトル :

著者 :

	良い	普通	悪い	コメント
選んだ画像／モノと関連している。				
出だしと締めくくりが分かりやすい。				
メッセージや教訓が分かりやすい。				
ワクワクする。驚くような要素を含んでいる。				
責任ある持続可能な生活とうまく関連づけられている。				
ストーリーの総合評価				

## E4 : グループワークの考察と評価

グループの各メンバーの貢献や手法について最も当てはまる単語を下から3つずつ選んでください。グループのメンバー全員分（自分自身を含む）についてそれぞれ記入してください。

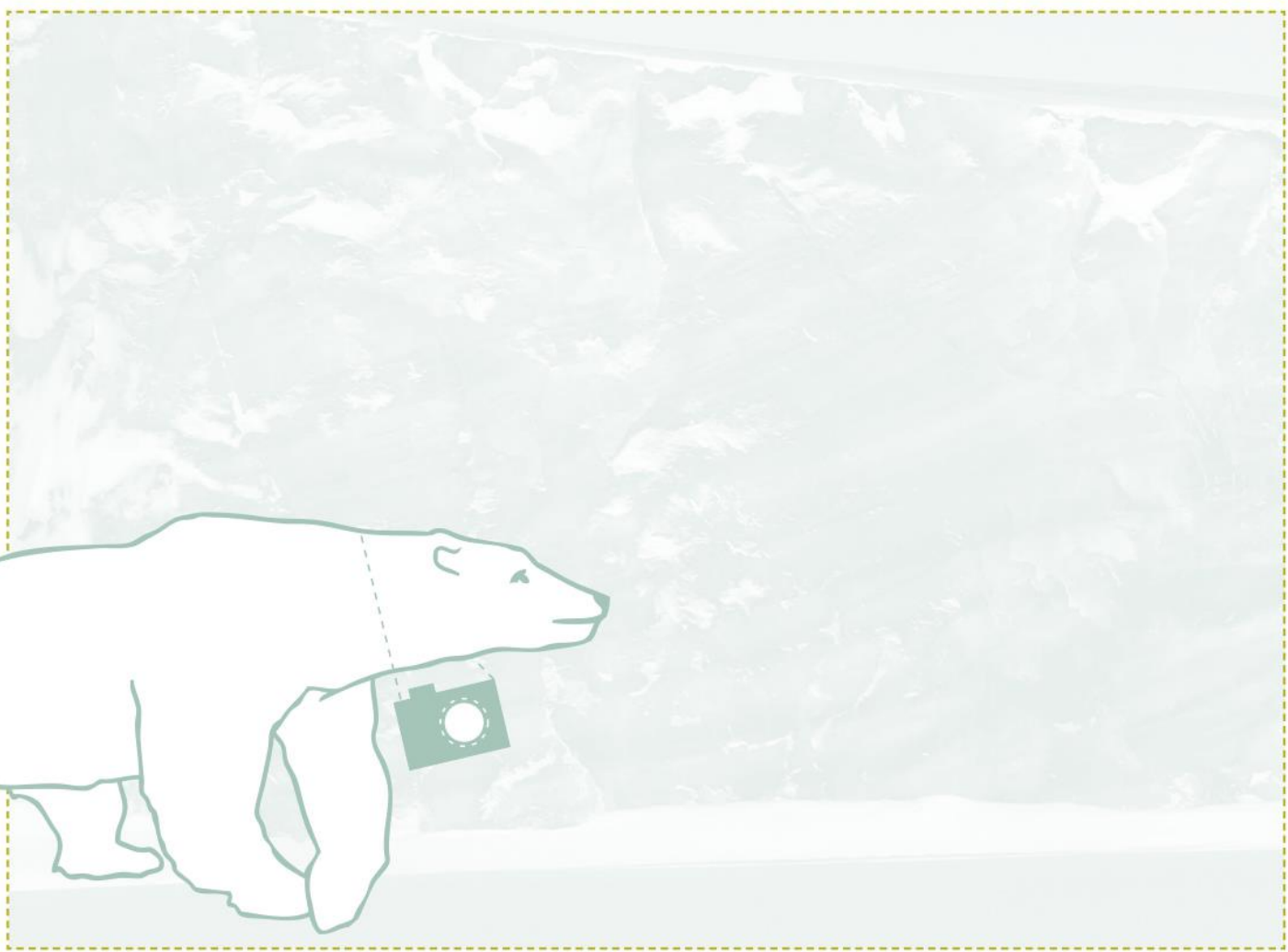
アクティビティのタイトル :

記入者 :

チームメンバー	選んだ単語
氏名	
氏名	
氏名	
氏名	
氏名	
氏名	

独創的	献身的	支持的	非貢献的	無礼	粘り強い
役に立つ	非協力的	鋭敏	気難しい	個性的	混乱している
謙虚	勤勉	熱心	精力的	思慮深い	情熱的
頑固	想像力豊か	公平	傲慢	ずさん	口うるさい
注意散漫	臨機応変	小まめ	正直	自己顕示的	生意気
協力的	論争的	やる気がない	我慢強い	ユーモアがある	心強い

# 画像サンプル







Copyright© PERL / Lenka Muzickova



Copyright© PERL / Gregor Torkar

(対象箇所無)





Copyright© PERL / Gregor Torkar



Copyright© PERL / Gregor Torkar



(対象箇所無)





Copyright© PERL / Vija Dislera



Copyright© PERL / Gregor Torkar



(対象箇所無)





Copyright© PERL / Gregor Torkar



Copyright© PERL / Nuno Melo



(対象箇所無)





Copyright© PERL / Nuno Melo



Copyright© PERL / Lenka Muzickova

(対象箇所無)

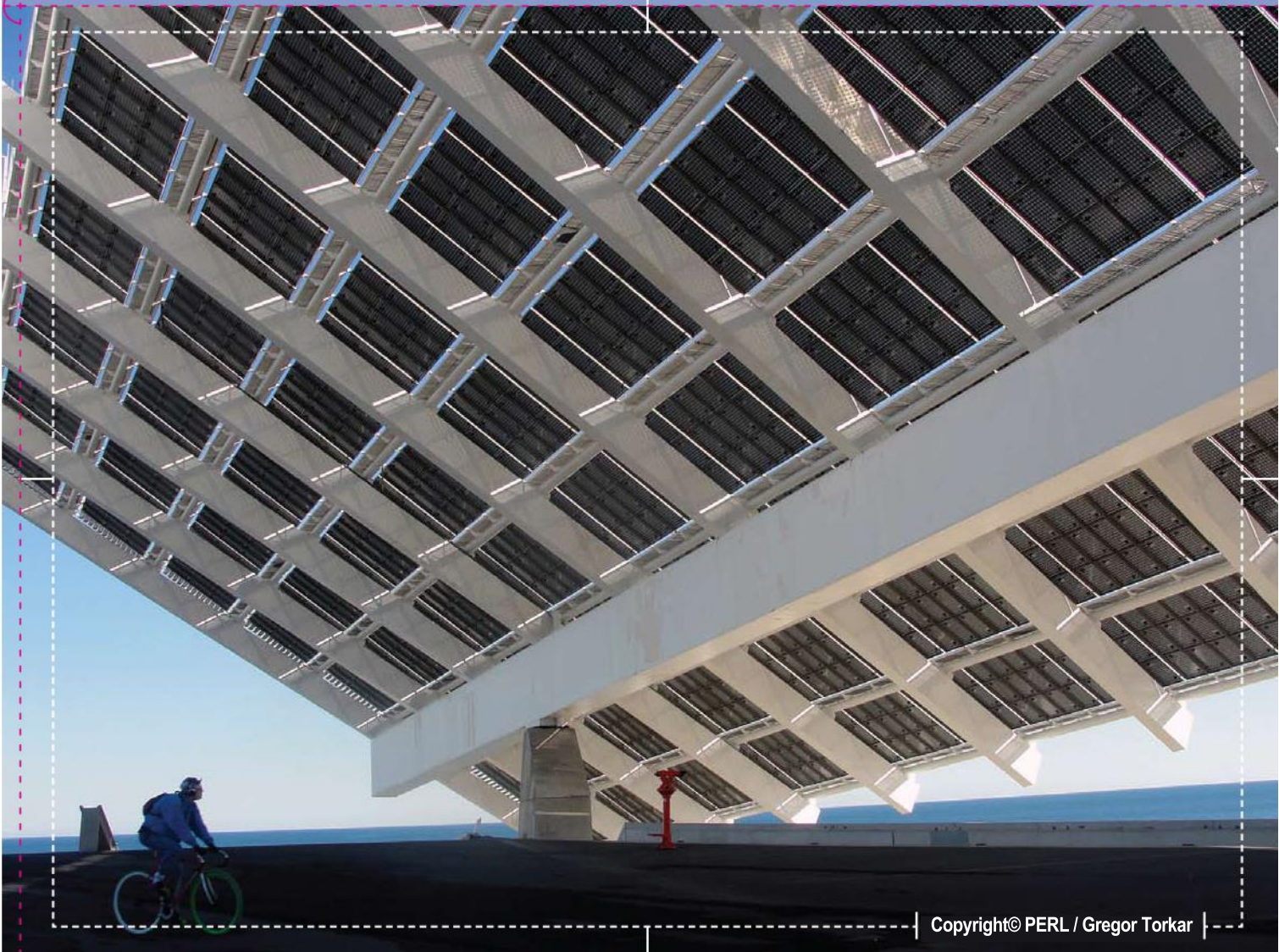


11°



Copyright© PERL / Sacha Irene de Raaf

11°



Copyright© PERL / Gregor Torkar

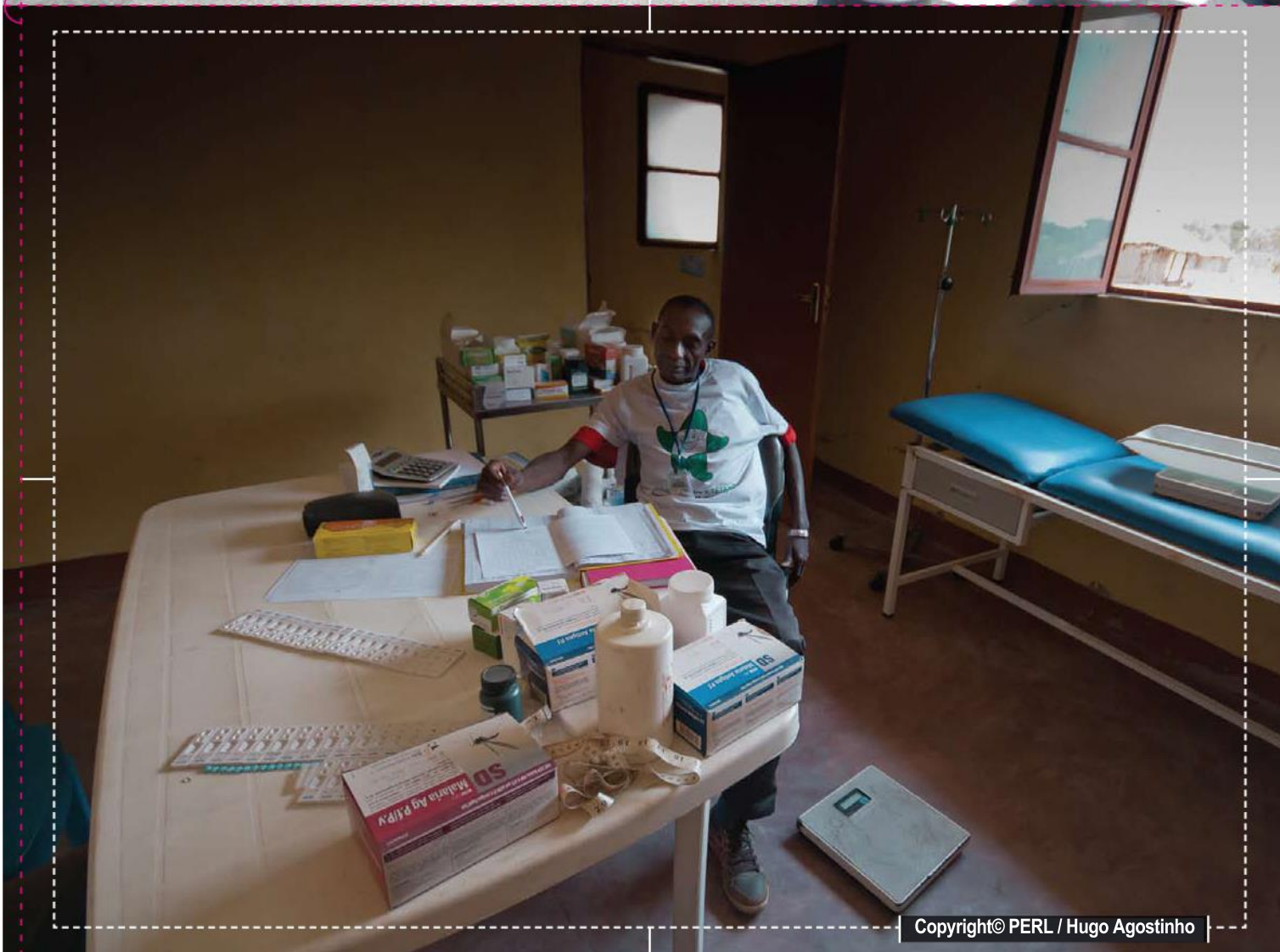
11°

(対象箇所無)





Copyright© PERL / Nuno Melo



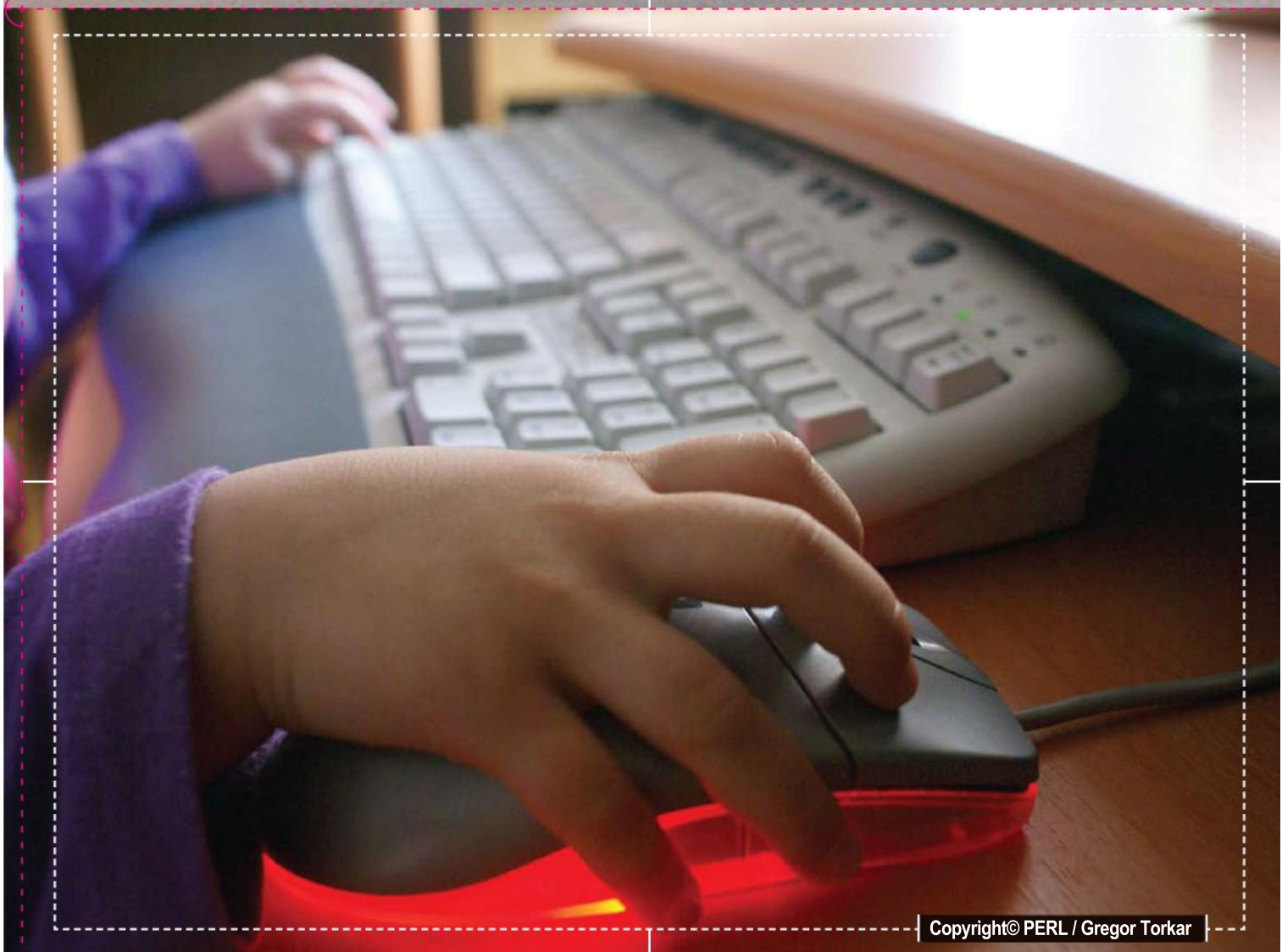
Copyright© PERL / Hugo Agostinho

(対象箇所無)





Copyright© PERL / Lenka Muzickova



Copyright© PERL / Gregor Torkar

(対象箇所無)



110



Copyright© PERL / Hugo Agostinho

111



Copyright© PERL / Helen Maguire

112



(対象箇所無)



Copyright© PERL / Helen Maguire



Copyright© PERL / Hugo Agostinho



(対象箇所無)



Copyright© PERL / Hugo Agostinho



Copyright© PERL / Hugo Agostinho

(対象箇所無)





Copyright© PERL / Hugo Agostinho



Copyright© PERL / Nuno Melo

(対象箇所無)





Copyright© PERL / Lenka Muzickova



Copyright© PERL / Ana Teodoro



(対象箇所無)





Copyright© PERL / Gregor Torkar



Copyright© PERL / Sacha Irene de Raaf



(対象箇所無)





Copyright© PERL / Stephen Lawless



Copyright© PERL / Hugo Agostinho

(対象箇所無)



# 参考文献

- Birch, C., Hackler, M.A. Who Says?: Essays on Pivotal Issues in Contemporary Storytelling (American Storytelling). Little Rock: August House, 1996.
- Egan, K. An Imaginative Approach to Teaching. San Francisco: Jossey-Bass, 2005.
- Gough, A., Sharpley, B. Educating for a sustainable future: A national environmental education statement for Australian schools. Carlton South, Vic: Curriculum Corporation for the Australian Government Department of the Environment and Heritage, 2005.
- Grumet, M.R. Restitution and Reconstruction of Educational Experience: An Autobiographical Method for Curriculum Theory. In Lawn, M. & Barton L. (Eds) Rethinking Curriculum Studies: A Radical approach. London: Croom Helm, 1981.
- Nanson, A. Storytelling and Ecology: Reconnecting People and Nature through Oral Narrative. Pontypridd: University of Glamorgan Press, 2005.
- Ogle, D. K-W-L: A teaching model that develops active reading of expository text. The Reading Teacher. US: International Reading Association, 1986.
- United Nations Millennium Development Goals. <http://www.un.org/millenniumgoals/> (2. 2. 2014)

## 写真提供

Gregor Torkar (page Front cover- FC, 5, 7, 29, 31, 33, 35, 39, 43, 55), Hugo Agostinho (FC, 41, 45, 47, 49, 51, 57), Nuno Melo (FC, 35, 37, 41, 51), Lenka Muzickova (FC, 29, 37, 43, 53), Helen Maguire (45, 47), Sacha Irene de Raaf (FC, 39, 55), Abdi Ali Farhan and James Phillip James (9), Stephen Lawless (57), Ana Teodoro (53), Vija Dislera (FC, 33).

ここに封筒を貼りつけて写真を保管してください。



## The Partnership for Education and Research about Responsible Living (責任ある生活に関する教育・研究のパートナーシップ)



PERL は、50 国以上の 140 を超える機関の教育者と研究者で構成されるパートナーシップであり、責任ある持続可能なライフスタイルの実現を目指し、市民のエンパワーメントに取り組んでいます。欧州のパートナーは、欧州委員会と締結した PERL の資金提供協定に基づいて決定されます。アジア太平洋地域、ラテンアメリカ地域、アフリカ地域では、当該地域に設立された PERL Network が現地での活動を推進しています。PERL による本プロジェクトはヘドマルク・ユニバーシティ・カレッジ（ノルウェー）のコアユニットにより運営され、運営グループの判断に依拠しています。

PERL の使命：

1. 人びとをエンパワーメントすることにより、行動的市民としての自身の役割を認識してもらい、日々の生活においてより責任ある選択を行えるようにすること。
2. 各国政府や企業、学校に影響を与えることで人びとを啓発し、有意義かつ魅力的なより良いライフスタイルの選択を行えるようにすること。

PERL の詳細は [www.perlprojects.org](http://www.perlprojects.org) をご覧ください。